# 3月8日国際女性デ

# 今年も、歩く国際協力 「Walk in Her Shoes 2024」が始まります

水汲みのために毎日歩かなければならない途上国の女性や女の子たちの身になって歩く、シンプルで健康的 なキャンペーンの歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」は、今年で13回目を迎えます。エントリー後、 歩いた歩数 500 歩につき 1 円が協賛企業から寄付される参加方法を主軸に、CARE の「C」や、今年から加 わった「水」に関係する写真を SNS に投稿するだけで、1 枚につき 100 円が寄付になる企画なども。さらに、 3月23日の「世界水の日」チャリティウォークほか、今年は参加者みんなで GPS アートに挑戦する新しい

また、キャンペーンオリジナルTシャツは、公募により決定した新デザイン。人種や性別を曖昧にした イラストを通じて、「国や性別、年代を超えて幅広く参加できるキャンペーン」であることが表現されていま す。オンラインでお買い求めいただけます。詳しくは、当財団サイトをご覧下さい。

誰もが気軽に取り組める国際協力として、多くの皆さまと一緒に「Walk in Her Shoes(=彼女たちの身に なって歩く)」を推進していけることを、事務局一同楽しみにしています。







ナショナル ジャパン

**CARE World Vol.46** 

2024年2月29日発行

# 国際女性デー 2024 オンライン写真展「水 x 投資」を開催します

## 女性に投資を。さらに進展させよう。

今年の国際女性デーのテーマは、「女性に投資を。 さらに進展させよう。」です。このテーマを踏まえ、 当財団が企画する本展では、特に、水への投資に よって躍進する女性たちを紹介します。ぜひ、当財 団が事業を通じて行っている水にまつわる投資に よってエンパワメントされた東ティモールやネパール の女性と女子たちの姿をご覧ください。

会期:2024年3月1日(金)

~ 同年 3 月 31 日(日) (予定)

会場: 当財団サイト







2023年6月から財務・総務部に所属しています。大学 では社会福祉を学び、卒業後は障がい者の地域生活支援、 EC サイト運営・流通などのスタートアップ企業で、総務 経理、オンライン通販の運営、営業などさまざまな業務 こ携わってきました。 国際協力 NGO は未経験のフィール ドで、学ぶことの多い日々を過ごしています。近年は世界 的に軍事的衝突や災害が多く、日本でも元旦に大災害が起 きてしまいました。多くの方が、CARE を通して思いを届け てくださることに、いつも感銘を受けています。



個人寄付担当

中央アジアのキルギスでデザインボランティアとして現地 製品のブランディングやデザイナー育成に携わっていました。 そこでは主に女性へ就業機会を提供していたこともあり、 「女性と女子を活動の中心にすえる」 CARE の活動に共感して

CARE ではマーケティング部の個人寄付担当として、クラ ウドファンディングや東京マラソンチャリティランナー対応 などを行っています。困窮している女性や女子が希望ある未来 を描けるよう精一杯活動に取り組んで参ります。

### 

Facebook:www.facebook.com/CAREjp Twitter:https://twitter.com.CAREjp

E-mail:info@careintip.org Website:www.careintip.org

CARE アクションする

٥L

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン ※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。 〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階 発行元までお寄せ下さい。 TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375

> ※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CARFの デザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。



# Vorld



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界 100 か国 以上で人道支援活動を行う 国際 NGO ケア・インター ナショナルの一員です。 災害時の緊急・復興支援や 「女性や女子」の自立支援 を通して、貧困のない社会を 目指しています。

### **Contents**

- ₽99 事務局長就任のご挨拶
- №2 ネパール:遠隔地の学校における 教室改修支援事業
- **№3** モロッコ地震被災者緊急支援事業

アフガニスタンにおける地雷除去事業視察の様子

写真提供:共同通信社

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」 国際女性デーオンライン写真展「水 x 投資」

# Newsletter February 2024

# 事務局長就任のご挨拶



公益財団法人ケア・インターナ ショナル ジャパンを常日頃よりご 支援いただき、厚くお礼申し上げま す。この度、当財団の事務局長に 就任した児玉光也です。河﨑前事務 局長からのバトンを受け、その重責

に身が引き締まるとともに、新しい挑戦ができることに 大きな期待と喜びを感じています。

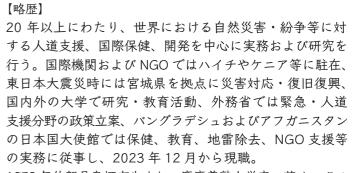
CARE は、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって 安心して暮らせる、希望に満ちた、包摂的で公正な世界を 目指すことをビジョン(展望)に掲げ、人々の命を守り、 貧困をなくし、公正な社会を創ることをミッション(使命) とし、全世界に存在する加盟組織の相互連携を通じ、100 か国以上において、人道および開発の分野で「女性と女子」 の自立支援を中心に活動を展開しています。

私は、これまでアフガニスタン、バングラデシュ、ハイチ、 アフリカ諸国等の現場における保健医療、災害対応、国際 協力の活動・研究を通じて、各地で CARE の活動を見て きました。CAREの魅力であり強みは、そのミッション (使命)、国際的連帯、そして多くの個人と幅広い企業、 および国内の CARE 支援組織の皆さまとの繋がりだと考 えています。

この強みを活かし、より多くの人々が希望に満ちた世界 の実現を体感できるよう、より多くの方々に我々の活動を 知っていただき、そして支援の手を差し伸べていただける よう、取り組んでいく所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。





1973年佐賀県鳥栖市生まれ。慶應義塾大学卒、英オックス フォード大学留学、東京大学大学院医学系研究科(保健学 修士)。

趣味:子育て(2歳男の子)、温泉、スキューバダイビング、



### ネパールで「遠隔地の学校における教室改修支援事業」を開始しました

### 女子も安心して、質の高い教育を受けられる環境をつくる 🥒

活動地域 ネパール 北西部 カルナリ州 スルケート郡ビレンドラナガル

実施期間 2023年8月1日~2024年6月30日

対象者 全校生徒 362 人 (男子 173 人、 女子 189 人)

株式会社えがおホールディングス

事業規模 1,300 千円





### どうしてネパール・ラストリヤ校を支援するの?

希少な野生動物と手付かずの大自然が残るバルディヤ国立公園の緩衝地帯に位置するスルケート郡ビレンドラナガルの最も 人里離れたところに、この事業の対象となるネパール・ラストリヤ校はあります。1979年に設立された同校には、5歳から16歳 までの 1 年生から 12 年生までの合計 362 人の生徒が在籍し、そのうち 22 パーセントにあたる 82 人が社会から疎外された ダリットや先住民のコミュニティに属しています。市内で唯一の学校であることから、大半の生徒が2時間かけて通学しています。 同校は、インフラが不足しているため、PMECs\*の指標を満たすのに苦慮しています。部屋数が不足しているため、2つの異な る学年の生徒が、多学年方式によって同じ教室で授業を受けています。また、同校は過去に2つの教室からなる校舎の建設に着手 し、土台と屋根は完成しましが、資源不足のため校舎は未完成のままです。その結果、生徒たちは壁のない教室で勉強せざるを 得ない状況にあります。水道も通っていません。さらに、女子に配慮したトイレもありません。長期的に見て、このことが多く の女子が退学する理由の一つとなっていることから、子どもたちが安心して、質の高い教育が受けられる環境をつくる必要が あります。 \*PMECsとは、質の高い学習環境をつくるための以下の1~5の前提条件または基本的条件を指します。

1. 適切な教室、2. 適切な生徒と教師の比率、3. 無料の教科書の適時提供、4. 女子用トイレ、5. 図書館





教室不足のため、未完成 のまま使われている校舎

### 具体的な活動内容は?

未完成校舎の教室の改修

多学年教室から各学年の教室に分けるための壁や 床工事を実施し、生徒の学習や学習成果の向上に 役立つ書籍や教材を備えた図書館を開設することにより、男女の 区別なく、質の高い教育を受けられる環境をつくります。

### 水と衛生設備の改修と維持管理

貯水タンクと生徒用の手洗い場を設置するとともに、手洗いの 6つの手順のデモンストレーションを行います。また、生理用ナ プキンを処理する設備を備え女子に配慮した優しいトイレを設置する ことにより、特に女子生徒が月経中でも通学できる環境を整えます。



### 意識向上 - 月経衛生対処を含む安全な衛生習慣に関する教師と生徒への研修の実施

思春期にある男女生徒に対しリプロダクティブ・ヘルスと月経期における衛生管理についての研修を実施します。同時に、女子生徒 を対象に、再利用可能な生理用ナプキン(布ナプキン)と安全な衛生習慣に関する研修を行います。また、女子に対する暴力や差別 を含め、月経にまつわる社会的慣習や古い言い伝えを変えるための、水と衛生および月経衛生管理に焦点を当てた課外活動を実施し、意識 向上を図ります。さらに、新採用の教師に対しても、知識とスキルの習得のための教員用研修を実施するとともに、養護教諭に対し、学校に おける栄養知識や、リプロダクティブ・ヘルスを含む思春期に配慮した保健サービスに関する能力開発を行います。



### 生理中の女性や女子を隔離するヒンドゥー教の慣習「チャウパディ」 ヒンドゥー教を信じる一部の地域では、生理は不浄なものとされ、生理中の女性や女子にはさまざまな制限があります。 その一つが家の母屋からの隔離です。牛小屋などへの隔離は違法であるものの、この事業を行っている地域では、現地

メディア\*によると、いまだに91パーセントの女性や女子が生理中に何らかの制限を受けています。感染症、蛇にかま れる、一酸化炭素中毒、凍死などによって、いわゆる「生理小屋」で命を失う女性の数は少なくないのが現状です。 \*2023年 | 月7日付け英字ニュース「ザ・ライジング・ネパール」





西ネパールのジャジャルコットを震源とし、 2023 年 11 月 3 日にマグニチュード 6.4 の 地震が発生したことをうけ、現地事務所は、 一時的に改修作業を中断し、救援活動に注力 しました。改修作業は本年1月第3週目に 再開されました。本事業の活動の進捗につき ましては、当財団サイトやソーシャルメディア を通じて、随時ご報告させていただきます。

▲倒壊の危険性があるため使用されていない第一校舎(左)と同じく古くなって使用されていない第二校舎(右)

### 緊急支援事業へのご協力をありがとうございました

2024年元旦、新しい年の始まりに発生した能登半島地震。近年、日本に限らず世界各地で大規模な地震が相次いで発生 していることをうけ、CARE は、各地の現地事務所と連携して即時に対応を行っています。昨年発生したモロッコ地震も

### モロッコ地震被災者緊急支援事業

2023 年に新たに CARE のメンバー国として加盟した モロッコで、同年9月、アトラス山脈が走る中部の内陸 部を震源とした地震が発生。CARE は、この地震をうけ、 震源地に近く、最も被害の大きかった山間部に位置する アル・ハウズ県アウトガール村を中心に支援活動を展開 しました。





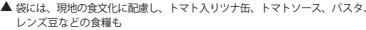
### 最も支援の届きにくい場所、最も弱い立場におかれた人々に支援を届ける

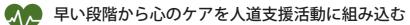
アウトガール村の160世帯の人々に対して、石けんやタオルなどの衛生キットのほか、赤ちゃん用おむつ、毛布や食糧品などの支援 物資を通じて、総勢9.106名に支援を届けました(2023年12月時点)。





現地事務所では、この冬が終わるまでに、アル・ハウズ県の56の村の 6,000世帯およそ3万人に支援を届けるべく活動を加速しています。 これまでに、越冬支援として、1,450世帯のおよそ7,250人に、毛布、 マットレス、寝袋、帽子、靴下などの防寒キット、シェルター修理用品、 衛生キットを配布しました。





被災によるトラウマの影響を軽減し、いち早く回復へと導くため、早い段階から、 現地のパートナー団体「MDM」と協力し、被災したコミュニティに心のケアを提供。 これまでに3,423名に「心のケア」のサポートを届けました。

被災者に寄り添うスタッフ▶



### ジェンダーに配慮した CARE の緊急支援



CARE は、すべての支援において、「女性と女子」を活動の中心にすえています。 自然災害において、女性と女子がより深刻な被害を受けることが多い要因の一つと して、現地に根付くジェンダー不平等があげられます。そのため、CARE は、女性 や女子特有のニーズに寄り添った支援ができるよう、迅速なジェンダー分析を実施し、 調査結果に基づいた支援を展開しています。例えば、緊急フェーズにおいて、ジェンダー に配慮した衛生用品の提供や、ジェンダーに基づく暴力 (GBV) にさらされることの ないよう安全なスペースの提供などを行っています。そして、これらのスペースは、 緊急から復興へと向かう段階においては、女性による小規模ビジネス活動を推進する ための場としても活用されています。

▲ 崩壊した自宅前で佇むファティハさん。地震後、祖母の家に避難した娘二人の心の傷を案じています。

### 皆さまのご支援に感謝を申し上げます

地震発生直後からおよそ3か月にわたり実施した「モロッコ地震被災者緊急支援募金」に対し、当財団全体で1,637,841円 のご寄付をいただきました。

### 「トルコ・シリア地震被災者緊急支援募金」へのご協力もありがとうございました。



前号(CARE World 45 号)でお伝えしました「トルコ・シリア地震被災者緊急支援」への募金に つきましては、当財団全体で 6,457,543 円のご寄付をいただきました。ご支援くださった皆さま に、心より感謝申し上げます。この1年にわたり行った支援活動につきましては、別途、当財団 サイト等を通じてご報告させていただきます。

◀トルコ南部ハタイ県に避難テント村の前で、母の日のために描いた絵を見せてくれたメレクさん。両親 は絵を描くのが大好きな娘が絵の勉強が続けられるようその方法を模索しています。

この場をお借りしまして、それぞれの募金への皆さまの あたたかいお気持ちに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。